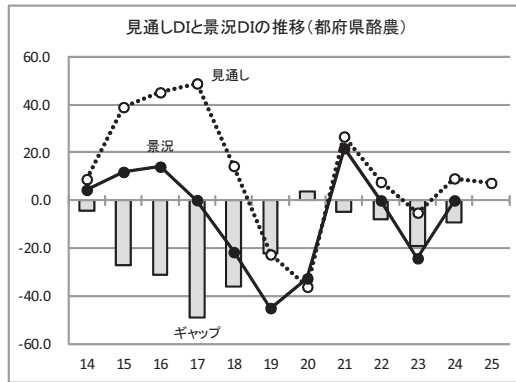
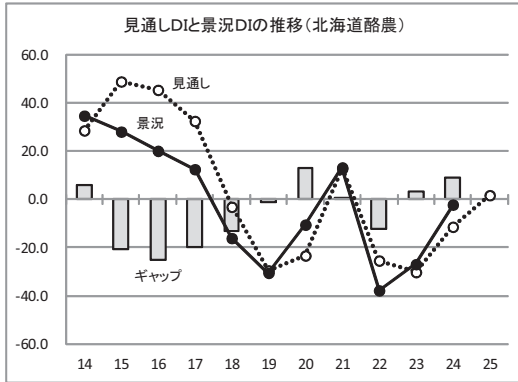


3. 地域差がみられる酪農の景況予想

すでに述べたように、25年の酪農景況は北海道、都府県ともに前年に比べて改善することが予想されているものの、両地域の見通しDIには56ポイントの差がみられる。これは、前年の景況感の地域差（北海道景況DIはマイナス22、都府県景況DIは0.0）が増幅された結

果となっている。換言すれば、いち早くマイナスの景況感から脱却した都府県の方が、縮小したとはいえマイナスの景況感に止まった北海道に比べて、景況がいっそう改善すると予想する調査対象者の割合が多かったことを反映している。



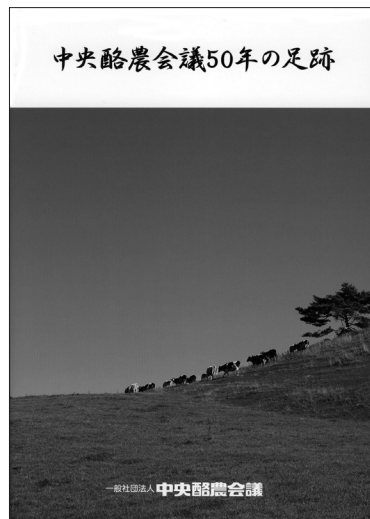
さらに、この見通しDIと景況DIの関係には、いくつかの特徴がみられる。つまり、北海道、都府県ともに、見通しDIと景況DIとは併行するように上昇と下降を繰り返しており、調査対象者は景況の変化をある程度まで正確に予想していることがうかがえる。しかし、見通しDIと景況DIのギャップを比べると、都府県の方が北海道よりも大きく、かつ都府県では見通しDIが景況DIをほとんどの時期に上回っていることから、都府県の調査対象者の方が景況の変化を楽観視しているように

みえる。
すでに述べたように、都府県の見通しDIは24年と25年の2度に亘ってプラスとなり、景況は改善傾向を持続すると予想されている。しかし、本稿を執筆している時点では25年度の乳価がどのような水準で決着するのか不透明であるが、飼料価格の高騰等により酪農家の経営リスクがいっそう増大することも予想されており、今後とも、酪農をめぐる情勢の変化を注視する必要がある。

書籍紹介

中央酪農会議50年の足跡

本誌は、中央酪農会議50年の活動の記録を取りまとめたものです。酪農関係者の業務に参考となる本誌を、ぜひご一読下さい。



中央酪農会議50年の足跡	
目次	
あいさつ	中央酪農会議会長 高取 肇 4
総辞	農林大臣若生野村事務次長 原田 英男 6
中央酪農会議50年の足跡	
概観	7
年次別主な活動	87
各年度の上り下り率と主要事業の概要	125
中央酪農会議創立50周年記念特号	143
中央酪農会議創立の「原点」を語る — 不足ない状態で当時の時代背景とともに — (日本酪農乳業史研究会ファンダクション)	
総代役員	157
職員一覧	165

A4判 168P
平成25年6月21日 発行